

須恵31 海軍炭鉱と新原公園

須恵町六ヶ新原

全国にも例のない国営炭鉱



海軍燃料廠探炭部第四坑表札

海軍直営の炭鉱

明治21年に海軍予備炭山に指定されたから、昭和39年に志免鉱業所が閉山するまで、開坑から閉山まで唯一国営の炭鉱がこの地にあります。国内で良質の石炭を探していた海軍は、有事の際に採掘する鉱山として、新原の炭鉱を明治21年に海軍予備炭山に指定し、新原探炭所を置きました。のち海軍探炭所、海軍燃料廠探炭部、戦後は国鉄志免鉱業所と名称を変更しながら操業を続けました。

が集められています。ここは、昭和4年に志免町に燃料廠の庁舎が移転するまで、第4坑の庁舎が置かれていた場所にあたります。中央に位置する海軍炭鉱創業記念碑は、海軍炭坑の創業50周年を記念するものです。須恵村、宇美村、志免村、仲原村の有志が発起人となり、昭和13年11月に立てられました。中央の文字は、当時の海軍大臣、米内光政によるものです。このほかに第三坑の坑口標、海軍技師萩尾謙次郎像、海軍炭坑第2坑際坑址の道標など、海軍炭鉱の資料が現存する唯一の場所です。

海軍炭鉱のシンボルモニュメント

新原公園には、海軍炭坑に関する資料



海軍炭坑創業記念碑



正明齋(レブリカ)

町指定史跡 田原後全宅跡

四百年続く眼科の家系

眼科の祖、高場順世

江戸時代から現在に至るまで、須恵には岡(高場)眼科と田原眼科という二つの眼科の家系があります。江戸時代には、福岡藩の藩医に登用され、名声を得ていました。田原眼科は江戸時代には日本四大眼科の一つに数えられました。岡家、田原家は、天草出身の高場順世から医師を学びました。高場順世が考案したとされる目薬「正明齋」は、須恵の目薬として昭和20年代まで盛んに作られました。



全国から治療に訪れる

江戸時代の田原眼科の治療記録『眼目療治帳』が現存します。この資料によると、患者の出身地は、北は北海道から南は鹿児島まで、年間1,000人以上の人がこ

須恵32 田原眼科と岡(高場)眼科

須恵町大字須恵・上須恵
県指定有形民俗文化財
須恵町指定史跡

の地を訪れたことが記されています。江戸時代の文献にも当時の繁栄の様子が記されています。

治療のための宿「眼病人宿」

「眼病人宿」は、眼病の治療のために訪れた患者が宿泊した宿のことです。江戸時代、上須恵には、日本四大眼科の一つに数えられた田原眼科があり、全国から患者が治療を求めて集まりました。上須恵村や須恵村は、もともとは農村



でしたが、全国各地から訪れる患者のために宿屋を営み、後に職業化して屋号を持つようになりました。上須恵では、「肥後屋」「唐津屋」「田田屋」など地名にちなむ屋号が今も残っています。後に、製薬・売薬業を営む家も生まれました。しかし、明治末に田原眼科が移転すると、眼病人宿も衰退し、現在では当時の面影を残すものはごくわずかとなっています。



岡家長屋門



町指定史跡 田原後全宅跡